

3 分区 多様化する不登校問題について

折井委員

多様化 LGBT
SNS 等

昔 不登校=登校拒否 生徒は学校以外の居場所がなかった

今 不登校、様々な問題がある。

学校以外での居場所があり、出席扱いになる施設もある

PTA として、不登校問題にどうかかわっていくか。

→個人情報に関係でなかなか踏み込めない

→学校、学級担任の考えにより対応が違う

→学校と家庭の考えは合致しているか（そっとしておいて欲しい、毎日訪問してほしい等）

保護者同士のインフォーマルな関係が大事になるのでは？

組織（PTA）としてやること、出来る事は難しいのではないか？

●お互い知り合えないと、よい対処方法がわからない。

保護者同士のコミュニケーションが大事

ここ数年はコロナの影響により・・・

PTA活動の縮小。

密になる会議や打ち合わせなどがなかなかできない。

→ZOOM 等を使っての会議や打ち合わせ

実際顔を合わせての会話からオンラインでの会話へ。

どのようにコミュニケーションをとるのか。

ZOOM などでは意見の交換がしづらい

PTAの負担軽減や活動縮小などで茶話会などを廃止する学校が多い。

★気軽に集まって、話ができる場を設けたい

何気ない話しが情報交換となり、お互いを知るきっかけになる

久保田委員

最近の不登校の傾向として

特に理由があったわけではなく、理由の不明確な不登校である
10年前、20年前・・・状況や質がかわってきている
学校の対応も違ってくる

タブレットの配布により、オンラインで学校とはつながる事ができるが、
「一方的に聞く、顔出ししない」など、
学校側からの一方通行になってしまう場合もある

★保護者の状態（経済的など）によって子どもへの影響があるのでは

他区は経済格差、教育格差
杉並区は青少年委員会を中心とした、子ども食堂などの働きかけをしてもらっている
青少年委員、学校支援本部などの**学校を支える地域の人脈**

P T Aは中学3年間という期限があるが、地域の力として学校に係わっていくのがよいかもしれない

例：桃四小の「サーモン・プロジェクト」

卒業した児童が何年か経って、また桃四に帰ってきて活動を支援する

◎LGBT教育について

更衣室、トイレ、は今後どのように対応していくのか？
制服（女子がスラックスを選べるようになってきているが男子は？）

道徳の授業で（直接LGBTという言葉は出さないかもしれないが）扱っていくのではないか。
杉並区ではまだ、具体的な事例などはあがってきてはいない

子どもへの教育の前に親への理解が必要かもしれない。

保護者が理解していれば、子どもも当たり前のように受け止めるだろう

昔 → 父母会、父兄

今 → 保護者、保護者にかわる人、保証人（大学では）

言い方が変わってきている